

第四次総合計画 後期基本計画を策定

市は、可見市第四次総合計画後期基本計画を策定しました。「住みごっこ一番・可見」の実現に向けて、着実にまちづくりを進めていきます。

総合計画とは

総合計画は、長期的視点に立って市の将来像を定め、その実現に向けて総合的かつ計画的にまちづくりを推進するための、市政全般の指針となるものです。

どうして策定するのか

平成23年度からスタートした可見市第四次総合計画は、前期となる5年が経過し、計画期間の折り返しを迎えました。

計画策定後、少子化・高齢化や格差的な人口減少社会の到来、依然として不安定な経済・雇用情勢、国や地方の厳しい財政状況など、市政を取り巻く環境は変化しています。

これらの変化に対応し、市の目指すまちの将来像を実現するため、平成28年度～31年度に実施する施策をより具体化・重点化した計画として、後期基本計画を策定しました。

実現化する姿と重点方針

本市の住みごっこの良さをより確かなものにしていくため、後期基本計画ではまちの将来像に向け、実現化する姿「住みごっこ一番・可見 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造」を位置付けました。

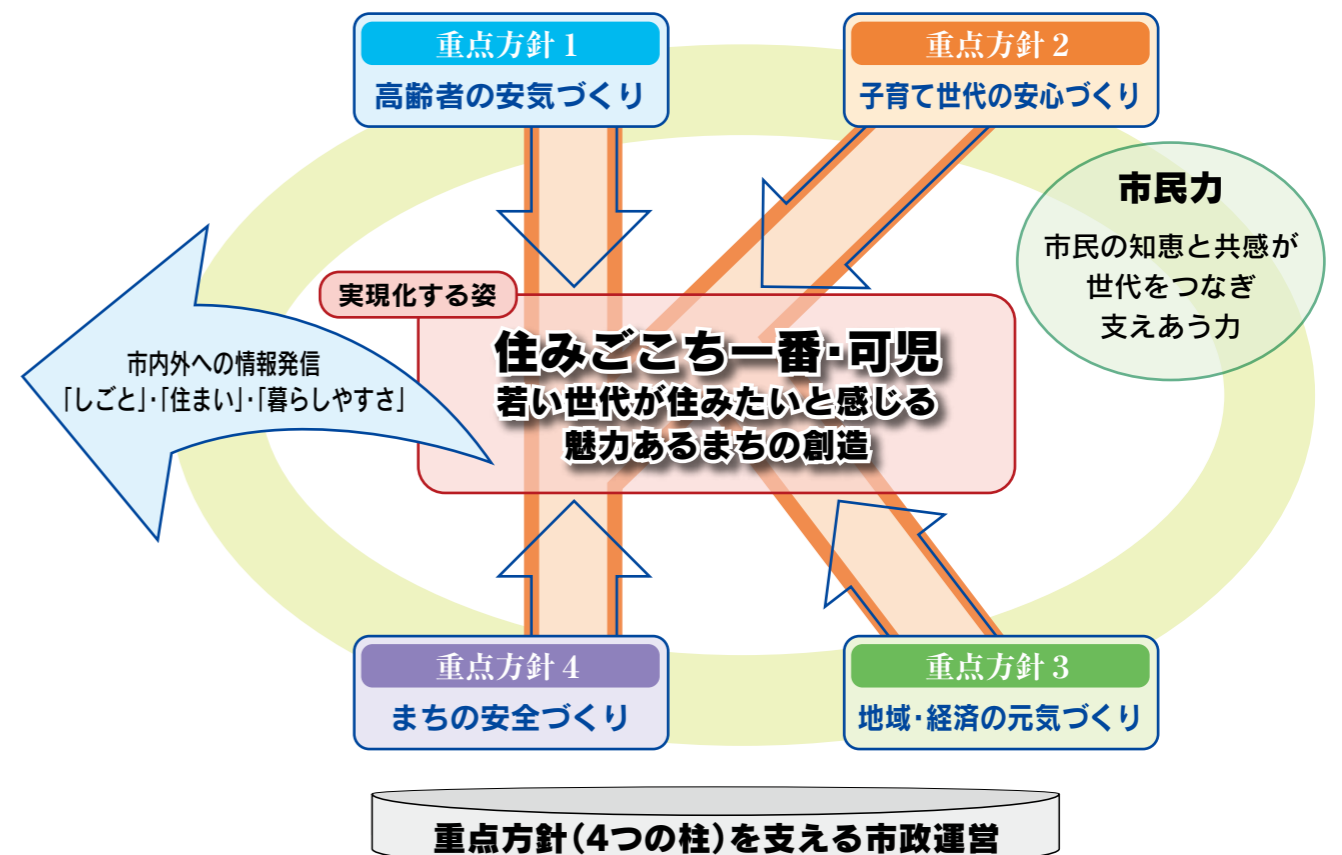
その実現に向け、重点方針（4つの柱）のもと、市民力を原動力に、子育て支援、企業誘致、支え合いの仕組みづくり、観光交流などに加え、情報発信にも力を注ぎ、後期基本計画を推進していきます。

後期基本計画は市ホームページで見ることができます。ぜひご覧ください。

問合せ 総合政策課



実現化する姿と重点方針(4つの柱)の概念図



重点方針1

高齢者の安気づくり

市民による主体的な健康・生きがいつくり、専門家・市民との連携による地域の特性に応じた支え合いの仕組みづくり、支援が必要な人への適切なサービス提供に、社会福祉協議会や協力事業者・関係市民団体と連携して取り組むことにより、高齢になっても住み慣れた地域で、いつまでも安気に暮らし続けることができるまちづくりを進めます。



重点方針2

子育て世代の安心づくり

子育ては、子どもがお腹に宿ったとき(マイナス10カ月)からすでに始まっていると認識し、妊娠期から子どもと子育て家庭が地域・社会とつながり、乳幼児期を経て学齢期まで切れ目なく支援する、～マイナス10カ月からつなぐまなぶかかわる子育て～を進めます。そのもとで、安心して子育てできる環境づくり、日本一子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす義務教育、ふるさとを愛し、社会に進んで貢献できる人を育むまちづくりを進めます。



重点方針3

地域・経済の元気づくり

商工会議所、観光協会や関係市民団体と連携し、観光交流人口の倍増に向けて、地域資源を生かした新たな観光資源を磨き、発信します。また、市外企業の誘致・市内企業の拡張支援や各種支援による経済の活性化施策に加え、地域資源を活用したふるさとへの誇りと愛情を醸成する施策により、元気な地域づくりを進めます。



重点方針4

まちの安全づくり

市民に身近な生活環境の安全と利便の確保を、民間事業者・関係市民団体と連携して取り組むとともに、地域の防災力を高め、大規模な災害への確実な備えを進めます。また、互いに支え合い誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを進めます。

